

社会福祉法人トラムあらかわ 令和2年度事業報告

法人事業報告

1. 法人事務局の運用体制の確立

主な業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①社会福祉法人として地域福祉の責任ある担い手であることを自覚し、その業務の透明性と計画性を明らかにするため、各事業所への巡回を定例化することで状況を的確に把握し、経営改善のための方策を講じる。	来年度は会計処理を事務局に集中させていくため、その準備を並行して進めながら訪問を定例化させる。	年明けから2回新しい会計事務所と相談の機会を持ち、来年度に向けて対応すべき事項について確認した。 訪問は時々したが状況把握のためではなかった。来年度以降はスケジュールに組み込んでいく。
②各業務のマニュアル化を完了させることで書類作成と情報管理をより確実なものとし、所轄庁による監査を滞りなく終わらせる。	監査を終え、抑えるべきポイントが見えてきた。それらを中心に改めて整理を進める。	多忙のため、取り組むことができなかった。
③各業務担当グループをリーダー会議での進捗管理を通じて統括し、各グループが適切に連携し、また意思決定できるようにする。	決定事項を議事録上に明示することで、議論の蒸し返しによる無駄をなくしていく。	議論の蒸し返しは見られなかった。 依然として進捗管理に十分な時間をかけられていない。

2. 人材確保と新規事業の検討

主な業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①各事業所の業務内容を法人理念や利用者利益の視点から見直し、整理する。	③に記載	③に記載。
②法人本部において必要な人員のサポートを素早く行えるように管理及び提案を行う。	もう1名について12月以降求人を出し、早めに採用することで、来年度の職員体制を2月理事会に提案する。	欠員補充については候補者と面談し、理事長専決で内定を出した。 令和3年度職員体制については予定通り提案し、承認を受けた。
③上記を踏まえた上で2021～2022年度の事業開始を目指し、事業検討ワーキンググループが中心となって新規事業の検討を進める。	整理したものの、新型コロナウイルスによる状況の変化やグループメンバーのモチベーション低下により、整理した課題には今は取り組まないことになった。	1～2月に勉強会を実施した。参加している職員は自分たちに不足しているものに気づき、同様の形式でのグループ継続を希望しているが結論は出せていな

		い。
--	--	----

3. 職責に見合った人材の育成

主な業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①中長期的な視点から計画的に研修やOJTを実施し、将来及び現在の職責に見合った人材の育成を図る。	人材育成グループの報告に記載。	人材育成グループの報告に記載。
②各事業所だけでなく法人本部からも職員に必要な研修が実施されているか管理及び提案を行う。	会場での受講には感染リスクが伴うので、希望者のみが同センターの後期研修等を受講。 受講しない職員については自主的に研修をおこない、報告書を提出してもらう。	都立精神保健福祉センターのオンライン研修を中心に受講してもらった。
③リーダー職員にミドルマネジメントの研修を受講してもらい、定期面談の効果を高める。	人材育成グループの報告に記載。	人材育成グループの報告に記載。

4. 障害の特性や多様性に対応した支援の提供

主な業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①計画相談や個別支援計画で明らかになる多様な利用者ニーズに応えることができるよう地域支援のネットワークを広げ、会議や勉強会等も積極的に参加、開催する。	荒川グループホーム連絡会、ネットワーク会議等、開催出来るものが少しずつ増えてきたので、地域支援のネットワークを広げていけるように参加、開催をしていきたい	コロナ感染予防のため、対面でのケア会議、事例検討会は減少したが、オンラインを活用しての会議や連絡会に参加する機会が増えた。対面困難な事業所同士がネットワークを繋ぐ可能性を模索している。
②地域の利用者ニーズに答えることができるように、新規事業を検討する。	人材確保と新規事業の検討①③に記載。	人材確保と新規事業の検討①③に記載。

5. 法人の事業や歴史の地域への還元

主な業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①トラムあらかわの実践で得た人材や支援の成果を講座や勉強会として地域に還元し、その取り組みを発信していく。	地域福祉グループの報告に記載。	地域福祉グループの報告に記載。
②自立支援協議会や地域移行部会への参加を通し	精神保健福祉連絡会に参加予定。ネットワーク会議で提出され	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの協

て、行政が進めている地域包括ケアシステムの構築に貢献する。	た資料をもとに地域診断を実施予定。	議の場設置に向け、精神保健福祉ネットワーク会議で地域課題の調査を行い、地域課題の抽出や共有をし、令和3年度に向けて課題解決への具体的な対応を考える芽出しを行う。(住まいの確保・他機関へのつながりのさらなる強化・他機関同士の連携充実が必要)
-------------------------------	-------------------	---

法人本部事業報告

<事務局>

主な業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①理事会・評議員会運営	引き続き、余裕を持った運営を続けていく。	緊急事態宣言等の影響を鑑みて、理事会は2回、評議員会は1回、書面での開催とした。それ以外は予定通り運営することができた。
②法人の現況報告財務諸表公開	来年6月に慌てることがないように、年度末業務を計画的に進める。	年度末業務は終わられたが、計画的とは言えなかった。改善が必要。
③各種監査事務	本理事会で報告し、必要な規程改訂等をおこなって、年度内には改善報告をおこなう。	12月に改善報告を提出した。会計についての指摘事項は今年度決算または来年度以降に改善していく。
④職員の給与労務全般	さらに気を付けて対応する。	大きなミスなく対応することができた。
⑤職員採用	求人を出した後は随時書類選考を行い、必要に応じて面談を実施して早めに採用を決める。	1月に面接し、内定を出した。
⑤固定資産管理	昨年度から始めた固定資産の所在確認を実施する。	令和元年度同様に各事業所に確認を依頼する形で実施した。
⑥事業所巡回／会議への参加	12月から事務局専従に近い形で勤務できるため、勤務日程に組み込んで活動を定着させる。	12月以降も事務局専従に近い形にはならなかったため、定着させることができなかった。

重点目標

目標	下半期の計画	下半期の取り組み
①事務局定義書のブラッシュアップ	会計事務所の変更に伴って会計処理が大幅に変わることになるため、その時に刷新する。	年度末の業務をメモ書き程度にでもまとめたかったが、余裕がなくできなかった。
②リーダー会議を通じて業務担当グループを統括し、適切に連携・意	決定事項の確認は確実におこない、今般のような無駄(議論の蒸し返し)が生じないようにする。	議論の蒸し返しはなかった。 依然として進捗管理には十分な時間をかけられていない。

思決定できる体制を構築する。		
③月次報告書と課題解決シート、各事業所への定期的な巡回や会議への参加を通じて運営状況を把握し、改善のための具体的な手段を検討・提案する。	上記の通り施設巡回が定例化できておらず、シート等の書面による状況把握にとどまっていることが、具体的な提案ができない理由と思われる。巡回や会議参加を定例化することで、月次報告や課題解決シートのさらなる活用を目指していく。	主な業務⑥に記載した通り施設巡回は定例化できておらず、数字の把握だけにとどまっている。

<人材育成担当>

主な業務

業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①職員キャリア管理	コロナの状況を踏まえつつ、各職員の気持ちを確認しながら、計画した研修への参加を促す。	重点目標①に記載。
②法人研修企画	12月企画の実施、振り返り。来年度の企画の検討。	重点目標③④に記載。
③職員業務目標管理	修正した年間予定に沿った運用を行う。	修正スケジュールに沿って運用を行った。
④実習生受け入れ	コロナの影響のため、受け入れはしない方針とした。	重点目標⑤に記載。

重点目標

目標	下半期期の計画	下半期の取り組み
①法人職員全体のキャリアを意識した研修計画を立案するため、昨年度から運用を開始した研修管理シートを活用した研修計画会議を実施する。	2月フィードバック面談を実施。 3月研修管理シートに今年度の参加実績を反映。	通常、年度はじめに行う研修計画会議を10月に実施。職員のキャリアを意識した研修計画の立案ではなく、主軸はコロナ禍に対応した研修の参加方法の検討となった。4月に昨年度の研修実績を研修管理シートへ入力。
②成長応援シートを通じて適切な評価ができるよう、成長シートver.2の運用やミドルマネジメント研修を受講する。	2月フィードバック面談を実施。 12月ミドルマネジメント研修の振り返りを実施。現場での活用方法について検討する。	10月にミドルマネジメント研修「コミュニケーションの取り方・人材育成」を受講し、1月に改めて内容を確認。2月フィードバック面談の実施後、面談の良かった点や改善点を共有した。
③次世代のリーダー職を育成するため、外部指導者を活用したリーダー	東京都社会福祉協議会が行う講師派遣事業が、リーダー職育成研修として活用できるか検討する。	コロナ禍で検討を予定していた研修がなく実施できず。

一候補者研修を実施する。		
④法人職員の基礎固めのため、職員研修テキストの共有や外部指導者を活用した法人研修を実施する。	研修での学びや提案を、いかに法人全体に還元できるか検討する。	12月に外部講師指導者による法人研修「チーム力向上」を実施。実施後、研修内容をいかに現場で活用するかが課題であることを共有した。
⑤積極的に実習生を受け入れるため、2事業所が主な実習生受入れ施設とする新体制を確立する。	(継続)実習生の受入れはしていない。受け入れない方針が決定した時、受入ると既に返答していた1校へは、リモート授業への協力という形に変更した。	実習受入はせず。アゼリア・ひまわりに実習代替の授業依頼があり、それぞれ対応した。

<広報担当>

主な業務

業務	下半期の計画	下半期の取り組み
① トラムレター発行	(継続)毎月の広報会議内でレター編集会議を開催。内容の充実や作業の効率化を目指し、原稿内容やページ構成の検討を行った。法人全体の取り組み(業務担当、講師派遣)の紹介も開始した。	・概ね計画に沿って内容の検討・発行することが出来た。 ・掲載内容で誤記が立て続けに発生したため、チェック方法について検討を始めた。
② ホームページ管理	(継続)全ページの記載内容を確認し、間違いや古い情報の修正を行った。そこで感じる情報が探しにくい、検索スピードが遅い、タイムリーな記事が少ない等の、見にくさ・タイムリーさの改善を図った。	・計画に沿って内容の検討、トップページの刷新を行った。 ・法人で企画した講座が新型コロナ・ウィルスの影響で急遽オンライン開催となり、変更のお知らせをホームページに掲載する際、現行ではどこに収めるのが適当か迷った。 →今後は最新情報の【法人本部】に掲載することにした。
③ パンフレット管理	刷新や新規作成が必要と思われるパンフレット(法人、ホーム、その他)について検討。	・令和3年度からは各事業所が刷新、新規作成等を行うこととし、広報担当グループの業務から外すことにした。
④「日本ではじめて地域の家族会を築いた男」のPR	(継続)PRの方法として、座談会関係者コラムの定期掲載を企画。第1回の掲載(2月)に向け、11月に小峯先生へインタビューを実施した。また、コラム掲載に合わせた書籍のHP掲載(一部)についても著作権者のめぐみ会に確認中。	・小峯先生のインタビュー記事はトラムレター4月号(令和3年)に差し込み、送付、配布した。 ・今後の予定は新型コロナ・ウィルス感染症の情勢を勘案し計画する(令和3年度へ継続)。
⑤コンテンツ制作	その都度、作成依頼があれば検討する。	・特に報告することなし。 ・令和3年度は一旦業務から外すことにした。

重点目標

目標	下半期の計画	下半期の取り組み
① ترامレター、ホームページの見やすさ・タイムリーさの改善。	ترامレターについて、レター編集会議での検討を継続。 ホームページについて、トップページ以外の改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の会議で次号の【表紙】や【法人の活動紹介】などを検討し、現状で出来る記事の掲載に努めた。 ・ホームページの改善、見やすさの工夫は次年度も継続とした。 →今年度の主な業務③、⑤を次年度から外し、その分力を入れて取り組むことにしたい。
②これまで広報されていない事業・活動の広報。(法人事業担当グループ、法人全体研修、法人職員の対外活動など)	(継続) ترامレターの大幅な構成刷新の際に「法人活動紹介」という枠を設けることとした。	<ul style="list-style-type: none"> ・7月(菓子部門の販売再開) 8月(特別別給付金) 9月(法人設立19年) 10月(講師派遣) 11月(安全衛生の取り組み) 12月(講師派遣) 1月(職員のコラム) 2月(講演会の案内) 3月(退職職員の挨拶)の記事を掲載した。 ・コロナ禍であまり動きがない状況でもあり、記事にするネタ探しに苦慮した。
③事業所パンフレット(ひまわり、ひまわり第2、ホーム)の制作、配布。	ホームのパンフレットについてのみ、刷新を完了させる。また、法人パンフレットの刷新についても検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・主な業務③に記載。
④書籍「日本ではじめて地域の家族会を築いた男」のPR。	主な業務④に記載。	<ul style="list-style-type: none"> ・主な業務④に記載。
⑤事業紹介に役立つコンテンツ(動画、パワポ、掲示物)の制作。	主な業務⑤に記載。	<ul style="list-style-type: none"> ・主な業務⑤に記載。

<地域福祉担当>

主な業務

業務	下半期の計画	下半期の取り組み
①精神保健福祉の普及啓発	講演会の運営 新型コロナウイルス感染予防のため外出が減り、家庭で過ごす時間が増え、子供がネットやゲームをする時	2月13日『子育てとネット・ゲームとの上手な付き合い方』をオンライン(ZOOM)にて開催。受講者は5名にとどまり、内容は好評だったものの広報の弱さが課題として残った。令和3年度以降、改めて対象、テーマ、広報

	間が増えている。長時間の使用から生活に支障をきたしたり依存になったりするおそれもある中、家庭内でのルール作りやネットとの関わり方を地域の方と共に学ぶ講座を開催することで、法人としてできることがあるか検討する機会とする	について見直していく必要がある。
②関係諸団体のサポート	10月以降再開の見込みなので、感染予防に配慮しながらサポートする	2月めぐみ会講演会のサポートを行った。新型コロナ・ウィルスの影響により活動自体を停止している団体が多く、機会がほとんどなかった。
③ボランティア関係	パントリー事業への協力:高齢者や母子世帯など地域とのつながりを持ちにくい世帯との関係作り(フードバンクから食料を受け取り、利用者に受け渡す) リサイクル事業への協力:地域住民との関係作り(施設内に古切手などのリサイクルボックスを設置し地域の方が気軽に立ち寄り話のできる場所を提供する)	荒川ひまわり、荒川ひまわり第2でパントリー事業(隔月1回)、リサイクル事業に協力した。
④福祉ニーズの情報収集	地域課題の中で法人としてできることがあるか検討する。	社会福祉協議会が発行している荒川区地域福祉活動計画『あらかわ粋・活計画』を各自で読み進め、課題について検討。具体的な活動にはまだつながっていない。

重点目標

目標	下半期の計画	
①地域の交流や講座等に積極的に参加・開催し、地域とヒトをつなぐ支援構築を目指す。	リモートなどできる範囲で参加し協力していきたい。	3月、社会福祉法人連絡会へ参加。パントリー事業について取り組み状況と課題を把握することができた。
②精神保健福祉の普及啓発を当事者と共に行い、共生社会の実現を目指す。	町家ふれあい館と連携し交流事業の開催について検討し可能であれば実施する。	新型コロナ・ウィルスの流行により、断念。

<安全衛生担当>

主な業務

業務	下半期の計画	最終事業報告
①職員健康診断管理	継続し、2月までに全職員の受診が終了する見込み。	2月にアゼリアが臨時休館になったため、予定日に検診が受けられなかった職員がおり、受診が3月にずれ込んだが、全職員が年度内に完了した。
②食品・衛生管理	インフル予防接種に対して法人より補助があるので、接種を推進する。 施設ごとの衛生用品の定数管理を導入し、ローリングストック法を整備する。	予防接種に関しては個々の職員の体調等の事情でさほど接種率が高くなかった。補助対象についての周知不足も一因なので、来年度は改善を図っていく。 新型コロナウイルス感染症に対応するための衛生用品のストックは全施設で完了した。状況次第では品薄となる可能性があるため、各施設最低ストック数を維持していく必要がある。
③利用者安全管理	【健康診断】 毎年9月～10月に利用者健康診断 【防災訓練】 ホーム:11月(ガスメーターの復旧方法)・1月 アゼリア:3/29 職員行動確認 荒川ひまわり:6月と10月～3月までに2度実施 荒川ひまわり第2:第1と同様6月～3月までに2度実施	【健康診断】 毎年実施していた利用者健康診断はコロナの影響により保健所で実施できず、中止となったため、個別の受診についての情報を提供、受診を呼びかけた。 【防災訓練】 全施設防災訓練は完了。また、BCP作成を通じて防災の意識が向上し、訓練日以外にも折に触れ話題になることが増えた。 【ホーム】スケジュール通り実施。下半期は防災カードゲームを使い、全体ではなく入居者個別に実施した。 【アゼリア】水害・地震・火災時における職員の行動を確認した。 【荒川ひまわり】地震と水害についての講義と図上訓練を実施(メンバーを居住地ごとに分けて、自分用の防災マップ作成を行った)。

		【荒川ひまわり第2】夏季に一度コロナ禍での避難方法を周知。下半期は、実際に水害被害にあった施設の聴講の講座を職員が災害時の避難計画作成の参考のために職員数人で受講。
④防災・期限管理	自転車保険TS保険全施設加入(10月中旬に終了) 各種期限管理必要なものは安全衛生グループで管理する体制を整える。 救急救命講習が再開されたため、1月より順次受講する。 BCPの完成を目指す。	自転車保険TS保険加入に関しては全施設が完了した。更新し続ける予定。 防災備品の管理については個々の施設の事情があるため、方法を検討するにとどまった。救命救急講習は延期分が1月より再開されたが、各施設の業務と重なったため受講は見送られた。代替としてコロナ禍でのAEDの使い方を安全衛生グループで学び、学んだことを各施設の防災訓練の際に盛り込むことにした。令和3年度は作成したBCPに基づき、防災訓練を行っていく予定。

重点目標

目標	下半期の計画	最終事業報告
①各施設の「事故を防ごう！報告表」を管理し、再発防止策を講じた後の経過観察をしていく(毎月のトラム会議で定例会を行う)。	頻発する事案に対し解決策を実行し、再発防止に努める。各施設で職員全員が閲覧できるよう掲示しているが、上手く機能していないため、定着する方策を考える。	上半期と下半期に各月に起こったヒヤリハットの報告を期ごとに取りまとめ経過観察を行った。頻発する事案に関しては完全ではないものの減少傾向にある。職員側の「小さなミスでも共有する」という意識の浸透により、報告件数自体が減少していない。また、報告表にチェック欄を設けることで、各職員に意識付けを図った
②各施設の防災訓練スケジュールを管理し、利用者が全員参加できる仕組みを確立していく。	(継続)	各施設において、利用者同士が近距離で接触する場面を避けながら工夫して防災訓練を行った結果、従来行われてきた防災訓練とは違う切り口での訓練となり、利用者の興味を高まりが伺えた。
③職員及び利用者の健康経営改善に取り組む	(継続)	・風疹抗体検査及び予防接種を受けた職員はいなかった。来

<p>み、法人全体の労働生産性を向上させる方法を検討していく(感染症予防や食品衛生実務講習会受講等)。</p>		<p>年度も周知を続けていく必要がある。</p> <p>・手洗いチェッカーによる実習により、洗浄の不十分な箇所確認でき、手洗いの重要性が確認できた。</p>
<p>④職員及び利用者の健康診断を計画的に実施する。</p>	<p>(継続)健診センターの受付再開後、申し込みと受診の確認をおこなった。</p>	<p>全職員の受診が完了した。</p>
<p>⑤HACCP義務化に向けた準備を進める。</p>	<p>HACCPは製菓会議の管轄となったため、直接は使わないが、状況把握のみ継続する。</p>	<p>ひまわり第2とアゼリアでは完了しており、運用できる状態となっているが、荒川ひまわりに関しては完了に至っていない。</p> <p>6月の施行までに行う予定。</p>
<p>⑥BCP策定の情報収集と検討を行う。</p>	<p>・安否確認システムについては、施設長会議で検討してもらおう。</p> <p>・BCP策定については、10月までに各施設担当が作成を終わらせ、12月までに施設長とリーダーが追記し、1～3月までに安全衛生グループで共有・協議・編集。来年度以降運用しながら他職員に意見をもらい、それを受けての修正・更新のサイクルが回るように整備していく。</p>	<p>・安否確認システムに関しては、ALSOKなど企業の有料システムの有用性について検討。有料のものを導入する前に、まず内部で連絡網の作成を試みるようになった。</p> <p>全施設BCPの作成が完了した。令和3年度はBCPに基づいた防災訓練を行うことにより、作成したBCPの有効性を確認し、修正を加えていく予定。</p>

施設事業報告

<荒川ひまわり>

重点目標	下半期の計画	下半期の取り組み
①主たる事業所(荒川ひまわり) 内職・施設外作業の安定確保と円滑な運営を行うための 仕組みを見直す (作業内容、人員配置、業務効率)	授産作業の安定確保に向けた共同受注への参画や企業への 営業を実施してゆく。施設外作業は現状を維持し、職員間 での情報共有とフォロー体制を強化する。	大幅な仕組み見直しには至らず。コロナによる 作業依頼の低下を防ぐことを優先せざるを得な い状況だった。結果、内職作業、施設外作業と もに一定量の作業を確保した。
②従たる事業所(パウンド屋) 施設規模に見合った製造計画 (受注量設定、人員配置、販売計画)	規格の安定した安全な商品を提供するために、負担の高い 製造計画を行わないよう注意する。	新たに非常勤を雇用することで余裕の持てる製 造につながった。コロナによる影響からイベント 中止が継続し収益は低かった。
③就労定着支援(ジョブサポート) 事業開始整備(ネットワークへの参加、書式・情報整備)	新規登録者1-4名のサービス提供を予定。	3名の就職が実現、半年後の就労定着支援本 格実施に向けたOB支援が開始。
④危機管理体制の整備 BCP策定(事業継続計画)、HACCP導入(ひまわ り第2との協働)、 ヒヤリハット集計から見える環境整備検討	引き続き日常的な危機管理に対する確認を行いながら、必 要な書式などの整備を行う。	HACCPは第2と協働し運用開始。 BCP整備は原案完成。次年度以降運用しなが ら内容の調整を行う。感染症BCP作成につい ては次年度に検討。

利用者支援	下半期の計画	下半期の取り組み
①就労継続支援事業 ・興味をもって継続的に参加を促せる作業プログラムの 準備を行う ・就労に向けた具体的な取り組みを行い、就労につなげ る支援を強化	下半期は施設外作業(公園清掃・草刈り・ぱぱす品出し作 業)への要望が高く、スキルアップ研修の実施検討。コロナに よる企業面接など減少傾向だが、希望者への対応を実施。 他企業と協働での就労の在り方を検討する。	コロナ禍による企業の対応は様々だったが、施 設外作業は変わらず実施することができた。希 望者には積極的に参加できるよう配慮を行っ た。3名の就職による卒業者を送り出すことが できた。
②個別支援計画 ・利用者一人一人の目標希望に沿った個別支援計画を 策定し、事業所内での定期的な共有を行う	定期的な情報共有やケース会議の実施方法を検討する。	コロナによる通所状況の変化に伴い、希望作業 や時間設定を個別に反映することは難しけれ ばならなかった。短時間利用の中での振り返りや職員間での 共有についても不十分な年度となってしまった。

<荒川ひまわり第2>

重点目標	下半期の計画	下半期の取り組み
①就労継続支援B型は、工賃向上（平均工賃月額11,000円以上）を目指し、利用者満足と運営の安定をはかる。	感染対策を徹底しつつ菓子販売活動を継続、出店場所の確保に努める。ネット販売を検討中。施設外就労を開始し、利用者の労働意欲向上を支援する。	B型平均工賃は、材料費に補助金を活用したが10310円と目標は達成できなかった。菓子の売り歩きは区のHPで感染状況を確認しつつ実施した。
②新規利用者がはじめやすい環境整備 生活訓練で、体験待機者0を目指し、生活課題の支援への取り組みを強化する。	見学・体験の受け入れを継続する。 職員が1名減の中で、丁寧な支援を継続できる登録者数についても検討する。	見学・体験を受け入れた結果、登録者が施設の受け入れ上限まで達したため、体験は順番待ちとなっている。
③危機管理体制の整備を進める。 ・製菓部門において、2021年6月の義務化へ向けてHACCP対応をすすめる。 ・BCP（事業継続計画）整備、ヒヤリハットの集計を危機管理に生かす、見える化、等	HACCPについては、運用の試行に入る（衛生管理記録の試行&改善取り組み）。 BCP整備・ヒヤリハット集計についても引き続き安全衛生部門のサポートを受けながら実施する。	HACCPは運用開始し、対応できている。 BCP整備は原案が作成できた。次年度以降、運用しながら完成度を上げる段階に入る。感染症のBCP作成が来年度の課題。

利用者支援		下半期の計画	下半期の取り組み
生産活動	作業において社会との繋がりを意識し、やりがいと責任感を感じられるよう支援する。	10月より施設外就労を開始し、施設から出て働く体験ができる場を提供する。	施設外就労は、安定して活動できた。体調不良者が 出た時にはお互いフォローしあって、継続できた。/ 菓子のネット販売には着手できなかった。次年度以降も取り組む。/ ノートパソコンを1台購入し、利用者の作業に使えるように準備を進めている。
	・企画や受注段階での利用者の関わりを増やし、積極的に作業に参加していただく。	菓子のネット販売を検討、社会との関わり方の選択肢を広げる。	
	・利用者から要望が強い「パソコンを使った作業」を実施する。	引き続き、利用者の挑戦したい気持ちを大切にしながら、作業に取り組んでいただく。	
個別支援計画	・生活訓練で、基本的な生活習慣（生活リズム、身だしなみ等）が身に着く支援を強化する。	外部機関への見学や訓練等を引き続き継続する。 通所が途絶えてしまう利用者への支援に取り組み、メールなど本人がやりやすいコミュニケーション手段を模索する。	通所習慣が不安定な利用者に対しての電話やメール連絡は継続した。通所に結びつく方・通所に結びつかない方は、様々。/ 今年度、町屋ふれあい館での受付業務体験をした利用者が、来年度に学童保育での職場体験を紹介していただいた。/ 就活への同行希望には対応を継続した。
	・休みが続いている利用者への支援を強化する。 定期的な電話連絡等で繋がりを継続する。		
	・外部機関の見学や訓練等を活用して、施設外の社会へつながる視点を大切にする。		

<支援センターアゼリア>

重点目標	下半期の計画	下半期の取り組み
①アセスメントとニーズ整理を意識した関わり 一般相談、計画相談ともに先の見通しを持った支援を提供する。	引き続き、会議等でケースを共有して支援を行う。	ケースは会議で共有することができた。退職職員の引き継ぎも問題なく実施できた。
②地域交流事業の促進 ・支援センターI型の利点を活かし利用者と地域が豊かに交流できるイベント等を企画する。	クリスマス会、新年会は中止。 2月6日に「生き心地の良い街」をテーマに講演会を企画。リモートによる会場の接続も検討。	「生き心地の良い街」はめぐみ会、ボラとも共催。講師と会場をオンラインで繋ぎ、視聴はオンライン環境も整えて実施することができた。
③ピアスタッフの活躍 ・利用者のリカバリーを促進するため、ピアスタッフの視点や関わりを活用する。 ・他機関や自治体のピアスタッフと交流連携する。	引き続き実施予定。 WRAPの運営方法について検討予定。 地域の「中高生ホットステーション」に参加。 感染拡大を鑑みながら検討する。	WRAPは遠方に住む講師にオンラインで参加してもらっている。 HS、区内引きこもりの会などにピアが参加 区内ピアスタッフ交流会を企画中。
④「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」への参加 ・荒川区が取り組んでいる「協議の場」の構築に協力する。 ・地域の精神障害者の個別支援の実践を自立支援協議会及び他会議体へ発信する。	引き続き協議の場への参加することで、ケアシステムの構築に尽力する。	荒川区の地域包括ケアシステムの協議の場の構築に協力、定義が整った。
	引き続き会議体へ参加、アゼリアの実践に基づく発信を行う。	自立支援協議会、障害者プラン、精神保健福祉連絡協議会等に書面で参加。

利用者支援		下半期の計画	下半期の取り組み
プログラム	・季節や地域のニーズに合わせたプログラムを開催。	感染拡大を鑑みながら検討する。	感染予防に最大限配慮しながら実施。
	・法人内事業所や区内他機関と協働することで、魅力あるプログラムを創出する。	引き続き、荒川区と相談しながら、新型コロナウイルス感染拡大に留意して実施予定。	定員制、予約制を導入し実施。
	・利用者ミーティングにてプログラムへの利用者ニーズを収集する。		
むりず	・毎月の担当者会議で随時アセスメントを行い、個々の利用者に必要な支援を提供する。	引き続き実施予定。	週2回、1時間のプログラムを実施。個別支援より居場所機能の活用を重点をシフトした。
一般相談	・個々のケースに丁寧に応じ、必要あれば事例検討を行う。	重点目標①に同じ	コロナ感染予防のため、来館者管理を実施中。職員はフロアに滞在可能時は2名配置したが、計画等で外出が多く常時運用は困難。
	・フロアでの交流や関わりから支援の可能性を検討する。	来館者が多い時間を中心に、短時間で、受付に二人配置できるシフトを検討する。	

相 特 談 定	・事例検討や制度の確認等を通して、事業所として一定以上の計画の質の向上をはかる。	重点目標①に同じ	来年度、専門員が1名減することに向けて新規受諾を制限し、質の確保を試みている。
------------	--	----------	---

<ホームとらむ>

重点目標	下半期の計画	下半期の取り組み
①空室を減らし、待機者を確保しながら運営の安定を目指す。	空室の待機者を確保しているので、感染拡大防止に努めながら進めていきたい。 下半期でサテライトの卒業予定者がいるので、次のサテライト予定者を検討していき、待機者の確保に務める。	人員不足となり、空室を埋めるための待機者確保ができなくなり、現状を維持していくことが最優先となってしまった。
②地域移行部会で取り組んでいるショートステイの事業化実現に協力する。	10月から部会が再開し、引き続きショートステイの事業化に協力を行う。	精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム構築において住まいの確保の課題が抽出されたので、取り組みについては次年度にショートステイの事業化への協力を行っていく
③自立生活援助事業を行っている他事業所の見学を行い、今後の支援内容を検討していく。	感染状況を見ながら、見学のタイミングを検討する。	状況を判断し今年度は中止とする
④第三者評価の結果を受け事業所の向上に向けて整備を行う。	最終報告書を職員間で確認・共有を行い、未整備の部分の取り組みを行う。 評価機関への報告と公表を実施。	1月12日に評価機関より報告書が上がり東京都に公表された。常勤職員が1名休職となったため、職員間の確認共有が十分できないままとなった。

利用者支援	下半期の計画	下半期の取り組み
個々の性格に合った食事や家事の方法や、様々な社会資源の活用や、やり方を一緒に考え、単身生活に活かしていけるよう実践していく。	共同生活の中で、新型コロナ・ウィルスとどう付き合いながら暮らしていくかを念頭におき、週1日に減った夕食会をそのまま継続するのか、支援内容の見直しも含めて検討し、単身生活に生かしていけるように実践していきたい。 まだまだ続くコロナ禍で、感染拡大防止のための環境整備を進めていく。	感染予防を徹底した上で、週1日に減らした夕食会を継続するが、職員の休職があり後半はそれもできないままとなったが、個々にあった食事や家事支援の方法を取り、単身生活に向けての取り組みを行った。